



校章の由来

県立三中を意味した三つの剣を組み合わせ、初代大屋校長の考えで剛健・真剣・勤儉の三けん、更に智・仁・勇の三徳を兼ねた象徴として用いられて来た

# 厚高同窓会報

<第51号> 2017年(平成29年) 5月1日(月) 発行  
http://www.atsukou-dousou.org

旧制中学卒業者 3,915名  
新制高校卒業者 26,771名  
合 計 30,686名

発行  
神奈川県立厚木高等学校同窓会  
編集  
厚木高等学校同窓会広報委員会  
TEL 046 (221) 4078  
FAX 046 (222) 8243

## あっぱれ、厚高「ダンスドリ」が全米選手権で準優勝!!



厚木高校ダンスドリル部の部員 15名は3月5日(現地時間)、米国フロリダ州オーランドで開催された全米チアダンス選手権で見事準優勝。13年前のグランプリに次ぐ快挙となった。(特集2・3面)



活躍する母校後輩に  
更なるご支援を

同窓会会長 曾根 秀敏 (高14回)

去る2月、「全米制覇の感動よ再び」との期待を込め、母校ダンスドリル部の12年ぶりの全米チアダンス選手権挑戦を激励する会を保護者会、OG会等のご協力のもと、多数の同窓生の参加を得て開催し、寄せられたご厚志を「はなむけ」として贈呈させていただきました。惜しくも再制覇は叶わなかったものの、堂々準優勝の立派な成績で大いに称えたいと思います。

これに代表されるように昨今の母校の文武両道の活躍は目覚ましいものがあります。

学業では、SSH指定校、グローバル教育など先進的な取り組みを行いながら、新たな学力向上進学重点校を目指して高い進路実績を積み上げております。また部活動では、多才な生徒が様々な分野で全国大会、県大会において優秀な成績を収めており、とりわけ昨夏の神奈川大会で公立校としてベスト16まで進んだ野球部の快進撃は、今だに余韻が残っています。

かかる母校の勇姿は何とも誇らしく、同窓会活動の大きな励みにもなり、母校発展への寄与の思いを一段と掻き立てられます。

母校支援に向けては、100周年記念募金の剰余金を原資とした「母校教育振興基金」と「部活動支援基金」がありますが、しかしながら年々減少し、母校と生徒の活躍ぶりを見るにつけ心配も募ります。また、同窓会活動の基盤となる会費収入も、会費制度を導入した平成19年度当時に比して半分程度で、新たな卒業生から頂戴する「入会金」と肩を並べるほどとなっています。

以前から指摘もされているこの課題に対処するため、支部長、理事の代表にも参加していただいた「財政基盤検討委員会」を昨年12月に立ち上げ、検討して参りました。この委員会の結果は、6月の通常総会に諮る予定ですが、骨子としては、広報・事業の充実・拡大により、参加と会費等納入の増加に繋げる方策を提示し、ご協力を仰ぐことなるうかと存じます。

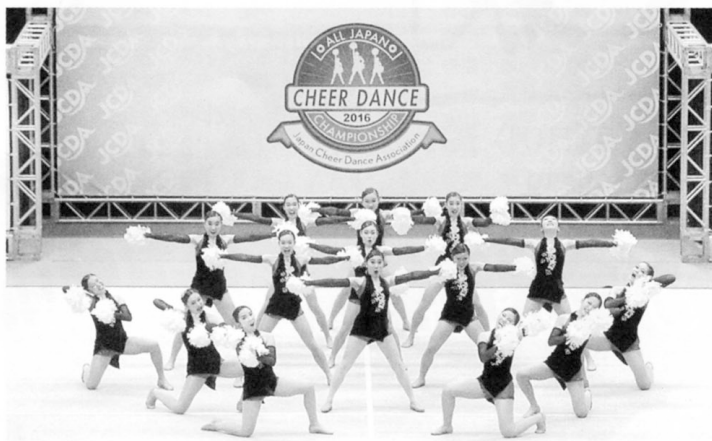
既に同窓会活動にご尽力いただいている皆様には恐縮に存じますが、躍進する母校を支え、母校と共に歩む同窓会を目指し、引き続き格段のご理解ご協力をお願い致します。

「同窓会報」も50号を数えるに至りましたが、活動内容や学校情報をお知らせし、同窓生の絆を強め、母校との繋がりを深める大事な刊行物であります。この会報が、同窓会活動の一層の拡がりに資するようお願い申し上げます。

# IMPISH全米チアダンス選手権で準優勝

特集  
1

## 13年前の グランプリ に次ぐ快挙



5連覇を達成した福井商業高校に及ばなかったものの、夢の舞台上で最高の演技を見せたIMPISHのメンバー



## 同窓会の皆さんに感謝

顧問 高橋 祐有(高56回)

平成29年2月12日開催の「激励会」で多くの同窓生や保護者等の声援を受けて大会に臨んだ厚木高校ダンスドリル部は、全米チアダンス選手権大会インターナショナルチームパフォーミング部門で見事準優勝の栄冠に輝いた。

アメリカに行つて凄く思ったことは、「百聞は一見にしかず」と言うことです。生徒達も夢に思っていた舞台上で1日目は移動が大変だったと思ったのだけれども、目を重ねる毎にアメリカのチームのパワーとか文化とかに触れることによって、それを自分達のものに変えて、表現する所まで持つて行けた所が、今までに見たことのない集中力で生徒達が頑張っている所を見るのが出来ました。

この全米大会を通して、日本の大会だけに出ていたら感じられな

## アメリカに残した宿題

同窓会副会長 伊藤 修治(高17回)

今、チアダンスが熱い！  
当節人気ナンバーワン女優の広瀬すずが主演の映画「チア☆ダン」が全国ロードショー中であり鬼教師役天海祐希の演技も評判だ。

『女子高校生がチアダンスで全米制覇しちゃったホントの話』というタイトルで、厚木高校(IMPISHインピッシュ)の事かと勘違いする向きもあるように聞くが、モデルとなったのは県立福井商業高校(JETSジェッツ)である。今回の優勝を含めて5連覇という最強チームだ。

実は、その因縁からして厚木高校・IMPISHとはシスターチームであるという事は意外と知られていない話である。

福井商業高校「JETS」の顧問の五十嵐裕子先生(映画では天海祐希が扮する)と元厚木高校「IMPISH」顧問伊藤早苗先生との出会い、そしてその後の関係。詳しくは、角川書店(2017年1月初版発行) 円山夢久著の

これは行けるんじゃないかと思いきや、生徒達もかなり気持ちよく踊っていたと思うのですけれども、2位という結果になりました。

アメリカの大会に行つたのに、日本のチーム同士で戦っていたと思つていますが、まだやりきれない所や、やらなければいけない所が見えてきたと思うので、これからも日々成長して行きたいと思つています。

同窓会の皆さん、ご協力頂き本当にありがとうございます。

## 参加部員の喜びの声

(3月30日の「報告会」会場にて)

有馬 菜摘(2年・副部長)

行く前はチームをまとめると思うことで緊張していたし、初めての舞台上に立つという色々な気持ちでドキドキしていました。

向こうに行つてから、海外のチームの方と友達になることが出来て、前から仲良くしていた友達みたいに温かく迎えてくれました。演技が終わった後で必ず「良かったよ」とか、「お疲れ様」と声を掛けてくれたことが大変嬉しくて私達も笑顔で「Thank you」と答えて、心身共に成長することが出来た大会だと思つています。

大谷 紗和子(2年・副部長)

アメリカへ行つて「世界にダンスが好き」と本当に感じて、同じステージの上でアメリカの高校生達が凄くキラキラと楽しそうに踊っているのを見て、もっと大きな世界へ向けて沢山の人が夢中になるダンスは凄く魅力のあるものなんだな、強く感じました。

渡辺 舞(2年)

アメリカに行つて「国も言葉も違ふけれど、好きなことを通して心一つにして楽しむことが出来るんだ」と言うことがわかったのが、嬉しかったです。

そして何よりもNDAのステージで踊らせて頂いたのが凄く嬉しくて、ステージに上がった瞬間、自分が今人生で一番輝いているなと、強く思いました。

藤沢 月菜(2年)

私がアメリカに行つて感じたのは、「Good luck!」終わったら「Good job!」と、アメリカの方の

他人を応援する心や他人を尊敬しあつて応援する心を感じることで「チアって良いな」と言うことを改めて感じました。沢山の人の支えられてここに立っているんだと言うことを実感しました。

中澤 菜月(2年)

今回アメリカと日本との文化の違いを感じましたし、おいしいものを食べる事が出来て、とても幸せでした。夢に見た舞台上で踊れたことが凄く幸せで、それは今まで支援・応援して下さった皆さんがいたからこそ出来たのだと思つています。英語をしっかりとしゃべれるようになりたいと、強く思いました。

栗原 優香(2年)

「厚木高校って、こんなに沢山の人が後輩を応援してくれる環境で凄く良い高校だな」と思ったのが、激励会の時の感想でした。

私が厚木高校に入ろうと思ったのは、ダンスドリル部の演技を見て、「この人達みたいになりたいな」と思ったからです。

増田 知子(2年)

本当に特別な体験をさせてもらつて、ステージも凄くキラキラ輝いていて、こんなに特別な体験が出来るのは、皆さんのおかげです。

長友 理桜(1年)

今回アメリカという憧れの舞台上で踊ら



# ＝同窓会会報50号発行記念＝ 会報に見る厚高同窓会の活動と歩み

特集  
2



第50号



第1号

昭和43年(1968年)8月4日、『厚高同窓会報』の第1号が発行され、48年後の昨年(2016年)第50号を迎えました。本号ではこれを機に同窓会の誕生から同窓会報の発行までの経緯を取り上げ、さらに会報のバックナンバーから主要記事を選抜し、「厚高同窓会の活動と歩み」として特集しました。

## 同窓会略史

創立百周年を機に発行の『戸陵百年の歩み』には同窓会の歩みが次のとおり記載されている。

### 1、同窓会の発足と旧雨会

第1回の第三中学校同窓会が開かれたのは、明治41年(1908年)1月3日であった。

「第1回同窓会の記」(『会誌』3号)によれば、大屋八十八郎校長の提案によって開かれた第1回同窓会は、第三中学校教員室を会場とし、22名が参加し下記の事項を決定した。

- ・本会は、神奈川県立第三中学校卒業生同窓会と名づく。
- ・本会は、卒業生相互の連絡を保つこと、話新談旧の樂をなすこと、及将来の親睦を計るを以て目的とす。(中略)

・本会は第三中学校長を以て会長とす。  
・会員は、普通会員、特別会員、名誉会員の3種とす。(中略)

第2回同窓会は、8月16日。会場は中庭に新築された教員会議室があてられ15名が参加、茶菓が出ている話があちらこちらから湧き、昼食後にはテニスに興じた(『会誌』3号)  
(中略)

また、明治43年(1910年)1月4日、大屋校長宅で旧雨会が開かれるのは、当初は1月4日頃に開催するとされていた名残であろうか。

明治44年(1911年)の同窓会は8月10日、大正元年(1912年)の同窓会は8月20日に開催された。(『会誌』6号・7号)

2、両青会(同窓会)の発足  
両青会が創立されたのは、大正12年(1923年)であった。両

青会の「両青」は初代大屋八十八郎の号であり、神奈川県立第三中学校開校にともなうて厚木に着任し、はじめて住居とした書齋には「両青閣」と命名していた。

両青会創立の由来について、昭和8年(1933年)に発行された「厚木中学両青会会報」第1号(藤野光典氏蔵)で、両青会長永野毅(中1)は次のように述べている。

「両青会が創立されたのは大屋校長が退職の前年、即ち大正13年である。勿論それ以前にも厚木中学卒業生の会である厚中同窓会があったが、当時は学校の校友会と同等のもので、独立した会計や何かは全くなかった。(中略)

大正13年に始めて独立した同窓会が創立された。筆者注：両青会の創立は実際には大正12年)

その時名に關して相当の議論があったが、厚木中学校同窓会とする主張はあまりなかった(中略)そして、創立以来廿余年間、厚木中学と生命を共にせられた大屋先生の雅号を同窓会の会名とする事に決定したという。

### 3、戦後の同窓会

同窓会長が永野毅(中1)から、第3代岡崎勝男(中9)に替わったのは、戦後になってからである。さらに、同38年(1963年)から茅誠司(中11)に替わり、平成元年(1989年)まで務めることになる。

昭和23年(1948年)から同47年(1972年)までの期間には、同窓会やPTAの全面的な協力や支援を仰ぐ大きな行事が数多くあった。すなわち、(1)体育館建設と創立50周年記念、(2)図書館建設と創立55周年記念、(3)校地拡張

と創立60周年記念、(4)戸陵会館建設と創立60周年記念、(5)新校舎竣工

及び造園工事と落成記念、である。同窓会は、PTAと協力しながら、特に資金調達面で一方ならぬ努力を行っている。

「厚高同窓会々報」が発刊されるのは、昭和43年(1968年)である。その時の同窓会副会長中村眞次(中18)は、「発刊に際して」で、「私の記憶によりますと、この長い間に時折、同窓会誌が発行されたことはありましたが、このような形式の会報の発行をみたことはありません」と記している。



## 「時代と共に生きる」 同窓会、つくりに参加して

第7代同窓会会長 近藤 俊二(高6回)

創立100周年を契機に、地元厚木に同窓会支部が続々誕生、その中で新しい体制の同窓会を創っていくという動きが始まった。

その骨子は、  
1、スピーディな社会変化に対応し、100年を5人の会長で運営して来られたような体制を変えていこう。  
2、学校内役員の先生方に任せきりの運営体制を改め、先生方には在校生のために全力で向き合ってもらいたい。

3、同窓会の運営費を、高校3年生卒業時に納める入会金と有志の寄付金だけに頼っているのは、活動範囲が限られてしまう。

そのような雰囲気の中で、平成17年第6代小澤会長の下、私は副会長の任に着いた。幸いなことにその年、県立高校同窓会の校歌祭をやるうという話が持ち上がり、数校が幹事校として準備に当たることになった。その担当になった



## 「燈々無尽…」

第8代同窓会会長 石川 範義(高10回)

さくら一蕾のはかなさ、満開の華やかさ、散りぎわの潔さ。冬が比較的暖かかったせいかな飯山の桜は開花が遅れ、今が盛りとなっています。(4月6日現在)厚木高校は1902年(明治35年)4月13日に戸室の丘に開校しました。

私は20回程の準備会に出席し、任務の傍ら他校の同窓会あれこれ学ばせていただく機会を得た。平成20年、会長に推挙された頃には会費制も始まり、在校生への教育活動支援も幅広く行われるようになった。会報も編集委員会で作成され、平原の「憶い出の杜に親しむ会」、家族向けには鶴沼海岸の「地引網も定着していった。新潟や関西にも支部が誕生、現在の27支部体制もほぼ出来上がった。中でも会員の意識向上に変化をもたらし最高イベントは、校歌祭参加ということだったと思う。21年の「第4回青春春ながわ校歌祭」は、わが戸陵会主管の下、厚木市文化会館で挙行された。そのフィナーレで、ステージ・花道・客席から、在校生を含め250名

の「戸室の丘辺」が歌われたあの興奮は、今も心に鳴り響いているように思う。  
進み行く創立150年に向け、三剣さらに光輝かんことを!

漱石はその頃活躍した人物で他にも私達がよく知っている、藤村・鏡花・子規・虚子そして与謝野鉄幹・晶子とあげれば切りがない程の有名な文人が数多(あまた)います。

さて、私が第8代同窓会会長に就いたのが創立110周年記念の年でした。  
まず、就任にあたり3つの基本方針を掲げました。  
第1に、この年の記念事業を成功させること。  
第2に将来を見据えて「女性の会」を作ること。

第3に活動が中断している「応援団の復活」を目指すこと。  
結果、7月7日の「七夕の再会」と銘うって開催した同窓会式典・記念コンサート・祝賀会(レンプラントホテル厚木)はなんと600名を超える同窓生が参集し、今後の〇〇周年の新たなモデルスタイルとしても成功したと自負しています。また当日は新調した大応援団旗を学校へ寄贈いたしました。各支部横断組織としての「女性の会」は名称をさくら戸陵会として発足し、「森口賢二(高44回)オペラコンサート」や「名取裕子(高28回)朗読会」等を主管し、活発に行動しています。

強力な本部役員・スタッフ・理事また各支部長に支えられ「新たな10年へ」絆を深められたと思っています。  
今日、4月6日は母校の72回生の入学式です。「尼の泣坂」の桜はいかほどの盛りか……。

厚高同窓会報ダイジェスト版(第1号~第50号)

- 第1号(昭和43年8月4日発行)4頁
  - ・巻頭言「発行に際して」(中村信司副会長)
  - ・同窓会名簿改訂中(協力依頼)
- 第2号(昭和44年11月1日発行)4頁
  - ・母校、新校舎落成す。鉄筋4階建て2棟
  - ・造園資金募集、490万円に達する
  - ・同窓会名簿できあがり一価500円で会員へ
  - ・賀実剛健の厚高転校を祝する/森屋高蔵(中1)
- 第3号(昭和45年8月2日発行)4頁
  - ・同窓会名簿完成、頒布の案内
  - ・同窓会を考える/上島一夫(中17)
- 第4号(昭和46年8月1日発行)4頁
  - ・表紙画像に「道園記念の碑」
  - ・主要大学合格者が初めて掲載される
  - ・母親が息子の先頭に/大生美奈子(高7)
- 第5号(昭和47年8月6日発行)4頁
  - ・戸室ヶ丘の3代/平井浩(大正5年中退)
  - ・創立70周年に寄せて/堀江伸(高3)
- 第6号(昭和48年8月5日発行)4頁
  - ・「目でみる戸室の70年」記念誌発行される
  - ・同窓会名簿、昭和50年に改訂
- 第7号(昭和49年8月4日発行)4頁
  - ・(本号から「事務局だより」として校内役員紹介及び「部活動状況」が掲載される)
  - ・名簿の改訂準備開始
  - ・空しく消えた旧校舎保存への夢/山田恒雄(中27)
  - ・関東大会出場(ボクシング部・弓道部・陸上部)
- 第8号(昭和50年8月3日発行)4頁
  - ・校舎増築、8月末には竣工/卓上電算機も設置する
  - ・厚高新聞を捜しています(編刷版発行に備えて)
- 第9号(昭和51年8月1日発行)4頁
  - ・サッカー部、全国へ、フエニング、体操も出場
  - ・母校への愛着/甲賀国夫(中37)
- 第10号(昭和52年8月7日発行)4頁
  - ・〈短信〉作詞者に校歌の音速する
  - ・厚高での教育実習/青木寿子(高26)
- 第11号(昭和53年8月6日発行)4頁
  - ・〈短信〉同窓会会長及び顧問の増員の提議
  - ・友情そして健康/石川謙吉(高4)
  - ・飯坂昇平(中21)に医療功労賞=新聞記事(昭和53年1月19日読売新聞)
- 第12号(昭和54年8月5日発行)4頁
  - ・〈クラブ活動状況〉吹奏楽部・演劇部全国大会出場
  - ・会員名簿改訂に着手、来年度の発行めざす
  - ・戸陵祭、新企画で盛り上がる
- 第13号(昭和55年3月1日発行)8頁
  - ・名簿改訂作業進む、所在不明者の調査に全力
  - ・「支援基金」に広範な温かい御芳志、総額早くも650万円に達する
- 第14号(昭和55年8月1日発行)10頁
  - ・全国大会出場等支援基金1,000万円を超える
  - ・55年版会員名簿を発行
- 第15号(昭和56年8月2日発行)10頁
  - ・創立80周年に向けて/野村浜生学校長
  - ・創立80周年記念事業、募金のお願ひ
  - ・「全国大会出場等支援基金」について
- 第16号(昭和57年8月1日発行)10頁
  - ・創立80周年記念式典を順て/野村浜生学校長
  - ・創立80周年記念募金1200万円突破
- 第17号(昭和58年8月7日発行)4頁
  - ・戸陵祭、盛大に開催される
  - ・母校での教育実習を終えて/飯田百々子(高32)
- 第18号(昭和59年8月5日発行)4頁
  - ・開校記念マラソン開催
  - ・なつかしき思い出/難波春美(中33)
  - ・キャッチに生きる賀実剛健/岸川洋一(高28)
- 第19号(昭和60年8月4日発行)8頁
  - ・自転車通学、5年皆勤賞/福井道道(中32)
  - ・同窓会名簿完成
- 第20号(昭和61年8月3日発行)4頁
  - ・「西湖会」発足/武福蔵(中35)
  - ・死ぬ!そして成れ!/葉山岳夫(高7)
- 第21号(昭和62年8月2日発行)6頁
  - ・全国大会等支援基金会計中間報告
  - ・開かれた学校・同窓会を夢見て/足立原泰(高12)
  - ・スポーツと平和-若きアスリートに寄せる/山本浩(中31)
- 第22号(昭和63年8月1日発行)4頁
  - ・全国大会等支援基金会計中間報告
  - ・〈座席両青会〉発足/鈴木茂(中37)
  - ・「徒然草」と酒/村田孝之(中17)
- 第23号(平成元年8月6日発行)4頁
  - ・故茅 誠司氏の後任、同窓会長を本日選出。
  - ・「改訂名簿」は明年8月に発行
  - ・「伊勢原戸陵会」再発足/佐伯省三(高3)
  - ・戸陵祭は9月に
- 第24号(平成2年8月5日発行)4頁
  - ・全国大会等支援基金会計中間報告
  - ・相模の風土と戸陵の気風/山田恒雄(中27)
  - ・紡ぐ糸がある/岩壁清吉(高19)
- 第25号(平成3年8月4日発行)4頁
  - ・〈支部活動ニュース〉欄新設
  - ・〈支部ニュース〉横濱会の歩み/佐藤 弘(中34)
  - ・巡り逢いに感謝/大橋有海(高11)
  - ・思い出/城所文洋(高11)
- 第26号(平成4年10月30日発行)4頁
  - ・巻頭言に初めて同窓会長(山田恒雄氏)が寄稿
  - ・感激の90周年式典/厚木市立 足立原茂徳
  - ・〈支部情報〉綾瀬戸陵会及び川崎多摩麻生戸陵会が結成
  - ・大和戸陵会(仮称)は設立準備中
- 第27号(平成5年8月1日発行)4頁
  - ・表紙写真「思い出の社」記念碑除幕式風景
  - ・思い出/古泉純一(高26)
  - ・〈支部ニュース〉愛川戸陵会、発足/小島菊代(中36)
- 第28号(平成6年8月7日発行)4頁
  - ・理想二題/村田孝之(中17)
- ・〈支部ニュース〉伊勢原支部、相模原両青会
- 第29号(平成7年8月6日発行)4頁
  - ・24年間一その回想-/中野昇(高5)
  - ・『新編相模国風土記』にみる厚木と戸室/堀江政伸(高3)
- 第30号(平成8年8月4日発行)4頁
  - ・豊かな市民社会をつくる/又木京子(高20)
  - ・同窓会活動の発展を夢見て/碓井 馨(高6)
  - ・同窓林記念植樹、行われ!
  - ・川村丈夫君(高43)五輪出場
- 第31号(平成9年8月3日発行)4頁
  - ・〈支部会便り〉三浦戸陵会発足/細野美廣(中33)
  - ・パレオコンクール/飯坂和也(高32)
  - ・〈支部活動ニュース〉が〈支部会便り〉と改題される
- 第32号(平成10年8月9日発行)4頁
  - ・〈支部活動ニュース〉男子バレー部、12年ぶり2度目の関東大会出場
  - ・ホテルカプリフォルニア-県立厚木高校物語-/横内謙介(高32)
  - ・教育実習を終えて/矢後純代(高46)
- 第33号(平成11年8月8日発行)4頁
  - ・100周年に向けて/大貫睦男(高17)
  - ・〈支部会便り〉御所見戸陵会設立総会/内野樹美(高11)
  - ・〈支部会便り〉新顔大和支部をよろしく/座間茂俊(高2)
- 第34号(平成12年8月5日発行)4頁
  - ・新任役員挨拶:小島菊代副会長(中36)及び内藤匡彦会計監査(高17)
  - ・木目にらめつて/霧島士郎(高28)
- 第35号(平成13年8月15日発行)4頁
  - ・新田校長からの寄稿(離任の挨拶)
  - ・〈支部会便り〉横濱会、秦野、海老名
- 第36号(平成14年8月17日発行)4頁
  - ・(100周年記念事業の日程表が掲載される)
  - ・有形、無形のお宝/大貫育男(高17)
  - ・〈支部会便り〉座間、厚木連合、三浦半島
- 第37号(平成15年8月9日発行)4頁
  - ・創立100周年記念事業、募金者芳名録を記載
  - ・同窓会の皆様への御礼/大貫育男(高21)
  - ・部活の再生を願って/中丸英一(高2)
- 第38号(平成16年8月14日発行)4頁
  - ・部活動ニュース「ダンスリトル部、全米制覇!」
  - ・我が学舎に着任して/山田和彦教頭(高24)
- 第39号(平成17年8月13日発行)4頁
  - ・〈支部会便り〉母校の栄誉に感激-感動の中、清川戸陵会の発足
  - ・/大矢明夫(高18)
  - ・部活動ニュース「女子バレー部初の関東大会出場」
- 第40号(平成18年8月12日発行)4頁
  - ・〈本部活動報告〉女性役員を初めて選出
  - ・相州健児の輝くれ、只今着任/難波淳一教頭(高18)
  - ・母校に20万円を寄付、高28期同期会を開催
- 第41号(平成19年6月30日発行)8頁
  - ・(会報のサイズがB5版からA4版になる。〈学校情報〉欄が初めて設けられる)
  - ・〈本部活動報告〉よりよき広報めざし、広報委員会発足。取材、編集活動も
  - ・〈支部会便り〉新潟戸陵会発足
- 第42号(平成20年7月5日発行)4頁
  - ・〈本部活動報告〉年費500万円超える
  - ・同窓生(昭和18年卒、河田 浩氏)のご遺族、同窓会へ1000万円の寄付
  - ・校歌祭に参加しよう!!10月13日、県立青少年センター(「青春かながわ校歌祭」の紹介)
- 第43号(平成21年6月30日発行)8頁
  - ・表紙に「第4回青春かながわ校歌祭」の案内
  - ・〈本部活動報告〉旧体育館の修繕・自習室の整備に同窓会基金より約60万円を支援
  - ・〈本部活動報告〉山田元会長の訃報
  - ・〈支部会便り〉まさに晴天の霹靂、愛川戸陵会佐々木力夫会長逝く/大貫邦重(高16)
  - ・〈同期会便り〉高11同期会開催/城所文洋(高11)
- 第44号(平成22年5月1日発行)12頁
  - ・〈本部活動報告〉「第1回思い出の日に親しむ会」開催
  - ・第4回青春かながわ校歌祭の特集
  - ・青春グラフィティ「校歌は人生の応援歌なり」/小島高司(高18)
  - ・〈支部会便り〉「両青会」から「戸陵会」へ、創立21年の総会で解明/相模原戸陵会-池田光義(高9)
- 第45号(平成23年5月1日発行)12頁
  - ・満呂木 勉博士(高3)の紹介記事「幻のノーベル賞」
  - ・〈〇B会便り〉厚高応援団〇B会、新入生に校歌の指導
  - ・〈支部会便り〉関西戸陵会発足
  - ・〈支部会便り〉支部会から戸陵会へ名称変更/津久井戸陵会、大塚朋子(高26)
  - ・〇B紹介「萩焼に生きる、岡田裕(高16)
- 第46号(平成24年5月1日発行)12頁
  - ・〈学校情報〉欄における主要大学合格者が再開
  - ・〈本部活動報告〉さくら戸陵会が発足。「七夕の再会、いま再びの感動を」(創立110周年記念行事-事業の紹介)
  - ・〈支部会便り〉同窓林「思い出の社」の由来と今/愛川戸陵会-八木一郎(高14)
- 第47号(平成25年5月1日発行)12頁
  - ・〈本部活動報告〉110周年記念事業報告
  - ・〈支部会便り〉「御所見」から「藤沢」へ、藤沢戸陵会、井出照雄(高11)
  - ・〈支部会便り〉百歳の洋画家、藤江三郎画伯、天国に旅立つ/小貼戸陵会-頼住道夫(高22)
  - ・〈同期会便り〉高6回、高17回、高24回、高27回
- 第48号(平成26年5月1日発行)12頁
  - ・特集「厚高とオリンピック-岡崎勝男(中9)から川村丈夫(高43)まで-」
  - ・〈本部活動報告〉「同窓会名簿」有料頒布の案内
- 第49号(平成27年5月1日発行)12頁
  - ・〈学校情報〉厚高生、全国で大健闘
  - ・〈支部会便り〉同窓林事業の取り組みと会費納入、財産確保の課題(愛川戸陵会/足立原泰(高12)
  - ・〈〇B会便り〉柔道の飯坂はプータンに続く/堀内芳洋(高50)
  - ・城所文洋氏(高11)の追悼記事
- 第50号(平成28年5月1日発行)12頁
  - ・〈本部活動報告〉名取裕子(高28)の朗読劇開催
  - ・〈支部会便り〉秦野戸陵会の御礼/古屋一恵(高28)
  - ・私、全然躊躇しませんから/さかもと未明(高36)



会報に見る 同窓諸氏との思い出

同窓会元校内役員 大貫 睦男(高17回)

私の母校奉職は昭和63年(1988)〜平成17年(2007)の19年間で最初の年に茅会長が逝去され、第5代会長に故山田恒雄氏(中27回)がなり、事務局長の中野昇氏(高5回)の下で総務として創立90周年事業を支えてきた。

その中の同窓林整備事業では愛川戸陵会の故佐々木力夫氏(高10回)、清川の岩澤衛氏(高12回)や造園業を営む荻野の故内田徳孝氏(高10回)、藤沢の故内野樹美氏(高11回)・長嶋喜満氏(高21回)他の

協力の下、下草刈りや枝打ち作業で汗をかき、春の名残雪降る中で寒さに震えながら仲間達と小屋で談笑したのは懐かしい。

その後中野先生が定年退職されその後を私が引き継ぎ事務局長を12年間担当することになる。20代 楠元守校長、21代進藤隆博校長、22代井上東亜校長、23代神倉正校長と続き、24代石塚崇校長の時に創立100周年記念実行委員会が発足。同窓会、PTA、学校が三位一体となり各種事業や施設整備、

記念品、記念誌作成に当たる。平成14年(2002)4月13日の開校記念日に「同窓の集い」を開催する。白フロシキにゲタ履き姿で〇B(伊勢原戸陵会)が登場し会場は大いに盛り上がる。これを機に「100周年イヤー」がスタートする。秋の11月7日には荻野運動公園体育館で記念式典を挙行し厚木ロイヤルパークホテル(現レゾナントホテル厚木)にて記念祝賀会を開催した。この年のPTA会長が現同窓会事務局長の石塚修氏(高28回)である。

その翌年には総務として大活躍した大貫育男氏(高21回)は転勤となり、代わりに志村祐一氏(高24回)が私の片腕となり同窓会活動を支えてくれた。



戸室ヶ丘落書

同窓会元校内役員 大貫 育男(高21回)

神奈川県西の端、真鶴半島。ここには自然林が残っていて、漁師たちは「お林」と呼んでいます。「お」を付けて敬意と親しみを示しているのです。「お林」には人工的な植樹によるのではない生態系があり、海難防止の祈りを捧げる小さな社もあります。ところが、ここにも環境破壊の波が押し寄せて来ました。「お林」の松が枯れ始めて来たのです。

その時、一人の「山彦」が登場します。彼は「樹木医」。枯れそうな松を次々と蘇らせて行きました。

魚の孵化や成長には、樹木や植物によって浄化され栄養素を豊富に含んだ「水」が必要です。先祖伝来の経験から、「海彦」である漁師たちはそれを知っていました。彼らの生活を守ったのが、ここに登場した「山彦」だったのです。

『古事記』を由来にした昔話とは違い、現代の「海彦」「山彦」は争うことはありません。

「働く」というのは「はた」のひなが「らく」になることだと、先人に教わりました。単なる駄洒落のようですが、深い言葉だと思

ます。自分のはたらき場所、その一隅を照らす、地道な生活者であれば幸いです。

戸室ヶ丘の光と影、青春の様々な栄光と挫折は、私たち厚木高校同窓のそれぞれの胸に焼き付けられていることでしょうか。楽しくも愉快でもあったが、それ以上に、悲しくもほろろ苦くもあり、歯きしり悔やむこともあった。しかしそれこそが世代を超えた私たちの共有の財産なのです。

今度、また出会った時、「はたらいてるね」、「はたらいきたね」と共感できるようなそんな現代の「海彦」「山彦」の話をしたいと思ひます。「海」「山」の異なる場面で培ったそれぞれの生きる力を、繋いで行きましよう。

本部活動報告

平成28年度の主な事業報告

同窓会活動は2つの大きな目的により展開されている。第1に同窓会相互の親睦・交流の促進であり、第2には現役生徒諸君への母校支援を展開することである。平成28年度は、母校支援として展開した2つの事業を報告したい。

まず、最初の事業が、授業教材用品としての「ホワイトボード購入支援」である。本事業は、より効率的な授業を展開する上で、必要な備品購入を予定していたところ、折しも県の財政難から十分な数量の確保が困難とお話げが学校長から寄せられた。

同窓会としては、役員会において事業の必要性を十分審議し、母校生徒の学力向上に資する事業であるとの判断のもとに、学校からの要請に対して支援を行い、多くの授業をホワイトボードが効果的に使用されている。

2つ目は、12年ぶりに全米選手権に出場を果たしたダンスドリル部への激励会、並びに報告会の開催である。2004年、全米チアダンス選手権における厚高生の快挙がニュース等で大々的に報じられたことを、ご記憶の諸兄も多くその後、部員たちの努力に結果が伴わない年度が続いた。ようやく昨年度の国内大会の活躍から、全米への切符を手にしたことを契機に「激励会」を開催することとなった。

「速報」 曾根会長らに「春の叙勲」

4月29日付発表の2017年春の叙勲で、元県教育長の曾根秀敏厚高同窓会長(高14回)が端玉小綬章を受章。厚高OBではこのほか、元厚木市議の小島一郎氏(高15回)が旭日双光章、元厚木市立小学校長で元市教育委員長の山本玲子氏(高15回、厚木戸陵会)が端玉双光章を受章した。



レンプラントホテル厚木での出場報告会 (3月30日)

- 結果は見事準優勝となった。帰国後の3月30日「出場報告会」を開催。選手15名と選手を陰で支えてきた保護者の皆さんも15名全員が揃って舞台上に整列し、選手からこれまでの感謝の意を込めて、カーネーションの花束を贈る場面では、会場が暖かい雰囲気になりました。なお、このカーネーションの花束は、大貫亘氏(高29回)からの提供であることも話題となりました。 事務局・石塚修(高28回)

28年度実施の主な行事

- 第16回地引き綱会/5月4日(水)※荒天により中止
●第1回最先端医療講演会/6月19日(日)(南毛利公民館)
●平成28年度通常総会/6月26日(日)(レンプラントホテル厚木)
●第11回青春かながわ校歌祭/10月15日(土)(横浜青少年センター)
●第2回チャリティゴルフコンペ/11月14日(月)(本厚木カンツリークラブ)
●第8回懐かしい出の杜に親しむ会/11月19日(土)(愛川織維会館)

第2回チャリティゴルフコンペ開催される

同窓会主催(厚木連合戸陵会主管)の第2回チャリティゴルフコンペが、平成28年11月14日(月)、本厚木カンツリークラブで開催され、38組150名の参加で盛大に行われました。終了後、表彰式・懇親会が行われ、クラブハウス内が大勢の参加者の歓声で盛り上がりしました。優勝は、座間戸陵会の江成紀一さん(高11回)でした。なお、参加者から母校支援基金に、20万円の寄付がありました。参加者の氏名は、別途記載の通り。

平成28年度 通常総会開催

平成28年6月26日、レンプラントホテル2F「暁紅の間」において平成28年度通常総会が開催されました。総会開会に先立ち、物故者への



講師の千葉大学名誉教授 安藤昭一氏(高21回)

黙祷が捧げられた後、足立原泰副会長(高13回)の開会の辞、石川範義元同窓会長(高10回)の挨拶及び佐藤信行校長の挨拶がありました。その後、議長団として下川信好氏(高10回)が選任されて、議事審議に入りました。議事のうち、27年度活動報告及び決算報告・会計監査報告については、幾つかの質疑応答はありましたが、満場一致で原案通り可決されました。また、28年度活動計画(案)及び収支予算(案)については、満場一致で原案通り可決・承認されました。なお、議事終了後、来賓の後祐一衆議院議員(高39回)の挨拶及び藤原敬子副校長からの学校報告

が、落合重治副会長(高13回)の閉会の辞で、平成28年度通常総会は終了しました。通常総会終了後の講演には、千葉大学グランドフェロー&名誉教授の安藤昭一氏(高21回)が登場し、「面白分子生物学」最新のニュースから」と題した講演を行いました。講演終了後、会場を同ホテル3F「相模(西)」の間に移し、石川範義元同窓会長(高10回)の乾杯の音頭で始まった懇親会では、和気藹々の雰囲気の中、親睦を深めました。最後は難波浩氏(高11回)の指揮による校歌斉唱が行われ、大谷哲郎応援団OB会長(高6回)の挨拶で散会となりました。 広報委員・小島聡(高33回)

第2回チャリティゴルフコンペ参加者

Table listing participants of the 2nd Charity Golf Competition, organized by prefecture (e.g., Kanagawa, Chiba, Saitama, etc.) and listing names and their association years.

「第8回思い出の杜に親しむ会」に78名

平成28年11月19日(土)、晩秋の日差しの中で、半原の山々の紅葉が、ここ数年にない美しさであったので、皆様に観て頂きたく期待していましたが生憎の雨。その雨の中、23名の方が「思い出の杜」に参集しました。

愛川織維会館「レインボープラザ」に於ける懇親会は、女性5名を含む総勢78名で盛大に行われました。中35回(昭16年卒)平塚の今坂清さん、中36回(昭17年卒)愛川の島菊代さん、中43回(昭24年卒)愛川の島和三郎さんをはじめ、高1ヶタ回の大先輩を多数御迎えし、酔うほどに盛り上がり、今坂清さんの力強い詩吟の披露、全員で輪になって第二応援歌「ああ青春の誇りなる」の大合唱。偶然にも参加された第二応援歌の作詞者である小島喜一氏(中28回)の娘さんの松本(小島)渥子さん(高14回)の紹介及びスピーチで盛り上がりました。

松本さんは、私と同期で3年間



生憎の雨の中、多数の同窓生が集った「思い出の杜」

同じクラスのよしみで、今年も、「思い出の杜」を見に来ないかと私が誘った結果でした。愛川戸陵会会長・八木一郎(高14回)

本部・支部会総会等のお知らせ

●平成29年度同窓会通常総会  
日時/6月24日(土)  
午後1時(予定)より

会場/レインボープラザホテル厚木  
講師/矢口有乃(高36回)  
(東京女子医科大学卒、同大救急医学講座教授、同大救命救急センター長)  
演題/「救急、集中治療における生命倫理」

＜支部会総会等開催予定＞

- 伊勢原戸陵会/5月13日(土)
- 綾瀬戸陵会/5月21日(日) 午後5時、「北京飯店」
- 南毛利戸陵会/5月21日(日) 「第2回最先端医療講演会」併催
- 平塚戸陵会/5月28日(日)
- 厚木戸陵会/6月4日(日) 午後5時、「アミューあつぎ601」
- 愛川戸陵会/6月17日(土)
- 厚木連戸陵会/7月16日(日)
- 「第12回青春がながわ校歌祭」  
9月30日(土) 厚木市文化会館大ホール、実行委 厚木東高校常磐会
- 秦野戸陵会/11月11日(土)
- さくら戸陵会/11月12日(日)

OBからの近況報告

横内謙介(高32回)

●劇団扉座主宰、脚本・演出家  
皆さんのお力添えで35年、扉座は厚高演劇部から生まれた劇団です。今年も春秋公演します！

岡森諱(高32回 岡本宣也)

●劇団扉座、俳優  
6月に扉座としては初めて厚木市文化会館の大ホールで公演を行います。ぜひ盛り上げたいのでご声援よろしくお願いします。

六角精児(高33回 山地克明)

●劇団扉座、俳優・ミュージシャン  
いつも劇団扉座を応援して頂き厚高の同窓会の方々には大変お世話になっております。僕も厚木公演の際は古巣に帰って来たような心持ちで舞台に臨んでいます。これからどうか宜しくお願い致します。

さかもと未明(高36回 安西明美)  
●漫画家、コメンテーター、歌手

訃報

「古座野隆さん(高21回)お別れの会」

去る4月1日、古座野隆さんが亡くなられた。享年66歳だった。4月20日の「お別れの会」では酒をこよなく愛していた本人の「皆でぜひ飲み会をやって」という生前の意向で、レインボープラザ



ルに厚高・早大の同期・同窓生を子のようにかわいがっていました。始め会社の元同僚や、彼が全力でその隆さんが私よりも早く逝って応援していた「劇団扉座」の面々、本心に悔しい限りなど170名近くが集まって故人を偲んだ。  
4月は冬が終わって春を迎える時ですが、隆さんはそれを見ないあの世に行ってしまった。  
「私は生まれも育ちも愛川町半原ですが、隆さんは愛川町田代の様やご家族の悲しみも非常に大きいです。そして私の妻は厚木市温水の出身で半原に嫁いできました。私達は(先輩も、同輩も、後輩も)隆さんに田代から厚木市恩名に引越されました。更に私の妻と隆さんの奥さんは共に旧姓が「和田」です。  
隆さんのことは小さい時からよく存じ上げていました。妻も我が子のように、安らかにお休み下さい。」

います。

1年間46回の生放送を、毎週全国各地の自治体にお邪魔してお送りしていますが、数年前に、わが故郷厚木市で、地元の方々と共に番組をお届けしました。思い出深い厚木文化会館での開催でした。その際、会場の整備から取材の手配まで、番組の下支えをして頂いたのが厚高の先輩方。高校時代の思い出話に花が咲き、母校が様々な絆を感じる大切な時間になりました。

●オペラ歌手バリトン  
2017年8月26日(土) オペラ「椿姫」(相模原市民会館)

●山下穂尊(高53回)  
「いきものがかり」ミュージシャン

●田口友理(高59回)  
メソソプラノ歌手

●厚高の絆はいつまでも大切にしたいです！  
広報委員・八田誠(高36回)

●卒業してからも15年以上経ちますが、そんな高校時代から変わらずに「いきものがかり」を続けていけることに感謝しております。様々な才能に溢れた同級生に囲まれた環境が本当に印象的な高校生活でした。  
相変わらず高校時代の友人たちと家族ぐるみの付き合いをさせて頂いています。今後も素敵な出会いや巡り合いに溢れる学校であり続けてくれることを願っています。  
水野良樹(高53回)  
「いきものがかり」ミュージシャン

学校情報

3年間お世話になった佐藤信行校長が、3月31日付で定年退職され、新たに横浜栄高校から中垣匡校長が着任されました。

また、藤原敬子副校長が百合丘高校の校長に転任され、大和西高校より神戸永江副校長が着任されました。



着任のあいつ

校長 中垣 匡

第30代校長として、横浜栄高校より着任しました中垣です。これまで校長を務めた2校はともに開校から10年に満たない新タイプ校でしたので、明治35年第三中学校として開校以来114年の歴史を持つ厚木高校に赴任し、改めて伝統の重さと素晴らしさを実感しております。

えられ、各支部においても継続的な活動が行われていると聞いております。それは、厚木高校を卒業した皆様が厚木高校を愛してくださっているからだと思っております。戸陵会のみならずの発展を願うとともに、現在そしてこのあと厚木高校で学ぶ生徒の皆様と

同じく厚木高校を愛してくれるような学校運営を行っていきたく考えています。

大和西高校より着任された 神戸永江副校長



同窓会校内事務局

本年度も昨年度と同じ8名の校内役員で同窓会の活動に協力していただくこととなります。8名の先生方の係り分担は次の通りです。事務局次長/須藤福治(高28回)

第49回 茅賞. S S研部長の 鈴木実乃里さん. 卒業する3年生の中で学業、部活動、人物などあらゆる面に優れた人物に贈られる茅賞は、今年度鈴木実乃里さん(3G)が受賞した。3年間SS研に所属し、部長も務めた鈴木さんは、1年次に東工大バイオコンで昆虫の活動温度帯について研究し、横浜市教育委員会賞を受賞した。当時流行していた「デンク熱をきっかけに、蚊の動きが周囲の温度でどのように鈍



S S研部長の 鈴木実乃里さん

「課題探求に喜び」

人前で話すことが好きだという鈴木さんは、生徒会副会長として学校説明会で厚高の魅力を発信することに貢献した。将来の目標は「力強い女性」。平安時代に漢学の知識で男性と肩を並べた多才な清少納言を挙げ、「あの豊かな感性に憧れます」と朗らかに語った。『厚校新聞』第255号(29年3月1日)より

過去5年間の主要大学合格者数

[現役・既卒の合計数 ( )は既卒者] 平成29年4月3日現在

Table with 5 columns: 学校名, 29年春, 28年春, 27年春, 26年春, 25年春. Rows include 国立, 公立, 私立 universities and a total row.

最近5年間の進学状況

Table with 5 columns: 卒業生進路, 29年高69回, 28年高68回, 27年高67回, 26年高66回, 25年高65回. Rows include 国公立大学, 私立大学, 短大/大専, 専修学校等, 進学者数計, 入学率, 卒業生総数.

28年度 部活動ダイジェスト

ダンスドリル部

同部の活躍は8月21日の全国大会1位を初め全米大会への推薦を得た11月19日の全国大会2位、そしてNDA全米チアダンス選手権大会での準優勝。詳細は、本紙23ページの特集に掲載。

軽音楽部

「厚高軽音」の活躍ぶりは、今年度もその勢いが止まらない。8月17日の「OTODAMA甲子園2016」に3年生バンドの出場。これは27年度県大会3位

事務局総務/須藤福治 菅井久男(高31回) 計/三橋 功(高38回) 壺井尚子(高37回) 部活動 支援基金/内野秀明(高30回) 松田浩幸(高54回) 同窓会名簿/谷田和久(高29回) 高橋祐有(高56回) 校歌 祭/菅井久男

野球部

夏の「第98回全国高校野球選手権神奈川大会」で奮闘し、ベスト16の好結果を残した。

演劇部

7月27日、北千住の「シアター1010」で行われた「第22回関東高校演劇サマーフェスティバル」に出場。これは27年度県大会3位

SS研

11月5、6日に最終選考会が行われた「第3回高校化学グランドコンテスト」で2年生の関野彩乃さんの発表した研究が、大阪市立大学長賞(3位)に選ばれた。さらには、2月10日の台湾での「Taiwan International Science Fair」で、2年生の中村彰吾さんが科学部門3位。

文芸部

第31回全国高校文芸コンクールの随筆部門で成見薫さん(2年)の「芸術を動かす」が入選。成見さんは陸上部にも所属しており、まさに文武両道。

囲碁将棋部

12月18日に行われた第28回県高校総合文化祭将棋大会団体戦で、2年生部員3名が優勝。





正面玄関左手のハナモモが今年も見事に咲いた



同窓会と共に

前校長 佐藤 信行

教員生活の最後の3年間を厚木高校で過ごすことができ、大変幸せ者であると感じております。無事退職を迎えられたのも、副校長教頭をはじめ、多くの素晴らしい職員に恵まれたことでもあります。同窓会の方々に日頃から大きなご支援を頂き、心の支えとなつて頂いたおかげと、心より感謝いたしております。

厚木高校の着任が決まった頃、周りの人からは、「厚木高校は同窓会の活動が活発で、付き合いが大変だよ」とよく言われました。実際自分自身でも「煩わしいな」と思っていました。しかし、同窓会の役員の方々や各支部の総会に参加される方々と親交を深めるにつれ、皆様の厚木高校に対する熱い思いが伝わって来ると同時に、今の厚木高校を支援し、生徒たちが大きく成長することを願っているのが分かりました。その皆様の気持ち、「生徒のために」と考え学校経営を進めるときの私の支

えとなりました。ところで、沢山の「まなボード」(マグネット式のホワイトボード)の購入をお願いしたとき、最初は形に残る施設や備品ではないのであまり快く思われなかったのではないかと、お願いを躊躇しました。しかし、育てたい生徒像を思いお願ひしたわけですが、私たちの考え方にご理解いただき、快くお引き受け頂いたときは、同窓会の支援を心からありがたく感じました。改めて御礼申し上げます。先日、職員玄関に向かつて左手にある花桃が咲き始めているのを見て、以前「憶い出の杜に親しむ会」で植樹した花桃を思い出しました。あの時植えた花桃は今頃どうなっているのだろうかと思いを馳せつつ、同窓会の多くの人たちとの親交が思い出されました。私のような若輩者を立てて支えて頂き、本当にありがとうございます。これからの厚木高校の更なる発展を心から祈念しております。

平成27年度 部活動大会実績(県大会ベスト4位以上)

Table with 6 columns: 部活動名, 受賞日, 具体的名称, 成績, 大会レベル, 備考. It lists various school activities and their achievements in regional and national competitions.

支部会便り

関西戸陵会

総会・同窓会開催

会長 齊藤 十内(高26回)

関西戸陵会は平成28年度同窓会総会を、6月19日に大阪駅ビル内ホテルグランヴィア大阪宴会場で開催しました。設立以来毎年開催しており、今回で7回目となります。当日は同窓会本部から伊藤修治副会長(高17回)に來臨いただき、更に、初めて厚木戸陵会から足立原強会長(高16回)にも足を運んでいただき、賑やかに、そして有意義な会とすることができました。

関西2府4県には約130名の

厚高卒業生が在住していますが、広いエリアにも関わらず、今回も30名の同窓生が遠路駆けつけてくれました。80歳以上の大先輩は、旧制中学41回の立川勲さんを筆頭に、斎藤康利さん(高3回)、芳賀雄彦さん(高6回)が足取りも軽く元気に出席。若い層からの出席では、高部有美子さん(高45回)、利満由美子さん(高40回)が女性として家庭と仕事の両立で忙しい中出席していただきました。女性陣は合計7名が出席して、毎回の

ことですが、比率としてはかなり高いのだと思っております。これも関西戸陵会活性化の原動力であり特徴の一つだと言えます。現役層の出席が多いのも特徴の一つで、紙面の制約上、一人ひとりについては紹介ができませんが毎日放送の渋谷秀勝さん(高39回)住友生命の杉浦勝二郎さん(高35回)、岩谷産業の斎藤寿一さん(高30回)等など、現役バリバリがそれぞれに活躍の様子を語ってくれました。半世紀の年齢差が一堂に会することで、厚高高校の伝統を全員が感じる意義ある時間であったと思っております。閉会にあたり、DVDの応援団の演舞に合わせ全員が校歌を歌い、余韻冷めやらぬうちに散会となりました。今後、関西戸陵会としては会員の確認・維持に苦勞を要しますが、良き特徴を活かすことで、維持発

津久井戸陵会

私の8月15日

小林 孝幸(高42回)



昭和20年8月15日、終戦の日、私達は学校の玄関前に整列してその時を待った。夏空が数片の雲を浮かべて広がり、周辺の木立から蝉時雨が降るように聞こえていた。当時私達は旧制中学校の3年生で、学校から1キロ程西に行った桑畑の中にできた日産自動車の疎開工場に学徒動員で働いていた。

工場はトラック建てで自動車の部品を製造していた。本社工員は数えるほどで、近隣の学校から動員されてきた私達学生が主力であった。私はピストンピンの研磨を担当して、最終工程の仕事で

製品の合格基準も厳しく、おしゃかにすればそれまでの作業がすべて無駄になってしまうということもあって緊張を強いられる毎日であった。勤務は午前中の早番と午後の遅番に分けられていて、遅番には昼食が用意されていた。それは寮生活で毎日空腹を抱えていた私にとってはとてもありがたいこととであった。

やがて、その時が来た。玉音放送であった。ラジオの雑音がひどく、言葉も難しくよく解らなかつたが、前に立たれていた先生方の様子で「戦争に負けた」と直感し「平和」を味わった。

た。その時は頭に何も浮かばなかつたが「今日はここで解散。」と言う先生の声を聴いた瞬間頭に閃いたことがあった。私は一目散に寮に飛んで帰り、居合わせた寮生を集め鍋やバケツなど手当たり次第皆に容器を持たせて工場に走った。そこには私が期待していた「物」があった。遅番の人達のために用意されていた雑炊である。私は工場長に掛け合せてそれを貰うことに成功した。寮に持ち帰ると早速皆で車座になって正に食いまくった。中身の薄い雑炊ではあったが久々の馳走に違いはなかった。

私達は戦地の戦争と共に飢餓戦争という戦争も戦わなければならなかつたのである。夜再び食事会が開かれた。灯火管制の覆いが外された電灯の下で、複雑な思いで

展に努めていきたいと思っております。平成29年度同窓会は6月11日(日)同じ会場で開催されます。SSH全国発表大会出場の後輩を激励

SSH全国発表大会出場の後輩を激励

平成28年度のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)発表大会が2年連続大阪で開催されるとの連絡を佐藤校長先生からいただきましたので、激励団を結成して8月10日に手土産を準備して会場のインテックス大阪を訪問し母校のブースを見学。優秀な生徒の皆さんと引率の先生方の激励と慰問をしてきました。今回も厚高生のポテンシャルの高さを実感する貴重な機会でした。



SSH全国大会出場の後輩を激励に

さくら戸陵会

横内氏(高32回)らを招き第4回総会開催

毎年、今年のさくら戸陵会はどんな卒業生にどんな応援をしようかと頭を悩ませます。同時に、会員の皆様にも親睦の場を提供し、楽しいものにするにはとあれこれ考えます。

今年、同窓会本部から石塚修事務局長(高28回)、学校からは藤原敬子副校長をお迎えし、11月20日に厚木文化会館にて総会を開催致しました。その後、同会館の芸術監督を務める劇団「扉座」主宰で、劇作家・演出家の横内謙介氏(高32回)の講演を聴き、劇団の公演を楽しもうということになりました。ちょうど、TVDドラマ相棒に出演していた六角精児氏(高33回)も今回の公演に出演をす

た。その時は頭に何も浮かばなかつたが「今日はここで解散。」と言う先生の声を聴いた瞬間頭に閃いたことがあった。私は一目散に寮に飛んで帰り、居合わせた寮生を集め鍋やバケツなど手当たり次第皆に容器を持たせて工場に走った。そこには私が期待していた「物」があった。遅番の人達のために用意されていた雑炊である。私は工場長に掛け合せてそれを貰うことに成功した。寮に持ち帰ると早速皆で車座になって正に食いまくった。中身の薄い雑炊ではあったが久々の馳走に違いはなかった。



厚高演劇部から現在に至るまでを講演

齋藤 昌代(高26回)

的な役者として活躍している岡森諦氏(高32回)も勿論出演しているので、舞台鑑賞はちょうどよい機会だったのです。しかも、演目は立川志の輔作の「歡喜の歌」を横内氏が舞台化し「落語と芝居とコラースト、面白くないはずがない



扉座の横内氏、岡本氏を囲んで記念撮影

とと思いました。横内氏といえば、昨年漫画「ワンピース」を市川猿之助丈と共に歌舞伎化し、大反響。いつも思いもかけない発想でクリエイティブな活動をしています。講演は、「来し方行く末」と題され、高校時代の演劇との出会いから、立川志の輔氏のお人柄、劇団主宰のご苦労等。時には、私達の高校時代を彷彿させる楽しいおしゃべりも。どれも盛りだくさんで、氏の一言ひとことに参加者の反応があり、対話形式のような素敵で楽しい講演となりました。その後の舞台鑑賞が大盛り上がりだったのはいうまでもありません。終演直後の大喝采がすべてを物語っていました。横内氏と、「扉座」の団員はこの芝居を持ってこの後東北へ旅公演に出発されました。震災直後は、演劇は無効だったがと横内氏は嘆いていました。ところが、ようやく5年たったいま東北の人々の心の復興のお手伝いをしたいと話されていました。

相模原戸陵会

“全国放浪”撮りまくり

中野 實(高11回)

長いこと数学教師をしていて定年の65歳を過ぎたら何をしようかと考えたのは多分皆さんと同じでしょう。結局日本中を放浪して写真撮りまくりと計画して、本当に実行、未だに実行中です。

20年近く非常勤講師をした厚高近くの東京写真大学(現東京工芸大学)で教えた学生(資産家の息子でアパートの部屋を数百管理している)を頼って北九州に移住、そこに数年間住んで星野村の彼岸花や海を見下ろす棚田などを撮影。四国八十八箇所も大判カメラで撮影。

大判カメラとは我々が小学校の記念撮影の時、写真屋が風呂敷の様なものをかぶって撮影した蛇腹式の写真機のこと。その八十八箇所巡りの写真展を北海道旭川市の隣、私の生まれ故郷である東川町の文化ギャラリーで開催したのできつかけに東川町に移住して以

来7年目です。

東川町は「高校写真甲子園」で近頃有名、同級生の麻生興太郎君(伊勢原)が富士フィルム役員として町に来て数百万円寄付したそうで、町長室と一緒に記念撮影をした。麻生君はその後湯治目的で来町して昔話に花。ちなみにソチオリンピック銀メダルの竹内智香(ともか)は、東川町温泉宿の娘です。町内のスキー場でしばしば見かけます。

その後の写真展は「北海道八十八箇所巡り」「西国三十三箇所巡り」「根室本線日本一長い各停列車2429D号の旅」「宗谷本線各停列車の旅」「石北本線各停列車の旅」等々。昨年平成28年12月の写真展は「留萌本線・今日なくなる増毛駅」。12月4日に廃線になったのですが、その日に合わせて地元音楽家5人にギャラリーコンサートしてもらいました。グラ

ンドピアノを友人とUNICで学校から運び写真の前で演奏したのです。ただ単なる音楽演奏会ではなく、「鉄道」写真展に合わせて鉄道唱歌や童謡を、町内合唱団を中心に来場者全員で合唱。翌日の「北海道新聞」に大きく写真入りで報道されて皆びっくり大喜び。

人口約8000人の東川町に来て、6年間で多くの友人知人が出来ました。コンサートで演奏してくれたバイオリンの小学校教師、ピオラの旭川市職員、チェロのおばさんの息子は旭川大学の先生、



故郷の北海道東川町での写真展に合わせたギャラリーコンサート

コントラバスの元中学校校長、ピアノノアは地元でピアノ教室主宰など写真展来場者ともどもみんなお互いに顔見知りなのです。

今回は「旭川一小樽各停列車の旅」を予定、撮影中。各写真展は全紙からA1などのプリント約百点なので大きなギャラリーが必要

伊勢原戸陵会



好きなことのできる悦び

岩崎 重雄(高12回)

会社をリタイアしてからの過ごし方をどうするかは皆悩むところであろうか? 俗にいう「濡れ落ち葉」だけにはなりたくないと思いつつ、いざその時になると考え込んでしまう。我々世代は企業戦士と呼ばれ、家庭のことは妻に一切任せっきりで会社の為に尽くしてきた人が多いと思う。仕事一途でその結果、何の趣味も持たず仕舞いで定年を迎え、その後の日々の生活をどう過ごしたらよいか途方に暮れてしまう。そんなことからこの言葉が生まれたようだ。

そう言う私も「濡れ落ち葉」だけには絶対にならないと考えていた。幸いにも現役時代はセブイレブンであったが、退職時にはゴルフと山登りが趣味となっていた。退職して間もなく、毎年5月に開催されている伊勢原戸陵会総会に出席した。春3月、秋10月の年2回ゴルフコンペが行われていることを知った。その年の秋のコンペに初めて参加した。先輩、後輩が組み合わせとなり、共に和気藹々と白球を青空に向かって、緑に囲まれたフェアウェイに気持ち良く打っていく。健康的で気分爽快と

です。当初は大判カメラ専門でしたが最近ではデジカメを使用。デジカメ写真の加工にフリーエ解析が活用されているのを「ピオラ」から教わりました。米国マグローヒル社発行「フリーエ解析」を日本語翻訳した私を知ってびっくりでした。

なる。プレー終了後の表彰式では優勝者を讃え、和やかに談笑する。雰囲気の良いにすっかり魅了され毎年参加することになった。

伊勢原戸陵会のゴルフコンペは歴代の会長はじめ役員の方々のご尽力により昨年10月開催(3月6日チエックメイトCC、10月20日清川CC)で44回の多くを数え会員の親睦・交流を深め続けてきています。80歳を過ぎた先輩が矍鑠として洗瀬とプレーしている姿を見ると元気づけられる。私も80歳過ぎまでプレーを続けたいと思う。プレーも楽しみだが先輩後輩に会えることもさらに楽しい。今年もまた楽しみにしている、待ち遠しい。以前は6〜7組と参加者が多かったが、最近3〜4組と減ってきていることは淋しい。若い人がもつと多く参加されることを念じています。

もう一つの趣味の山登りは二つの山俱樂部に所属し、月に1〜2回程度登っている。若い時は北アルプスや南アルプスのような高山に登っていたが、今は無理せず体調に合わせて丹沢や奥多摩、秩父方面の山々を四季折々楽しみなが

ら歩いている。樹林帯の中、木漏れ日を浴び、谷川のせせらぎを聴きながら小鳥の囀りを心地よく聞き、爽やかな風が頬をかすめ自然の中をゆったり歩く気分はまた格別である。現代生活では土の上を歩くことがほとんどないのでゴルフもそうだが、土の上を歩く感触は何ともいえぬ軽やかさで歩を進めることが出来る。梯子やクサリ場は、スリルがあり急登はきつい

綾瀬戸陵会

先輩から後輩へ首長バトンタッチ

事務局 八田誠(高36回)

平成28年度綾瀬戸陵会総会には5月21日(土)17時より大和駅前「北京飯店」にて開催。質疑応答のあと満場一致ですべての審議が終了致しました。

引き続き懇親会ではオペラ歌手バリエットの森口賢二さん(高44回)メゾソプラノの田口友理さん(高59回)による「ふるさと」に、学舎

めることが出来る。梯子やクサリ場は、スリルがあり急登はきつい、山頂に立った気分は達成感と爽快感に満ちている。これで苦痛や辛さは吹っ飛び、また山に登りたくなる。

これからの体の続く限りゴルフと山登りを楽しみながら続けてゆきたいと思っている。

中締め前の最高潮時、お二人のフイーチャリングにて、今回出席の昭和11年(高7回)〜平成元年(高60回)生まれの総勢約40名による校歌で閉会致しました。佐藤信行校長、曾根秀敏会長(高14回)、伊藤修治副会長(高17回)、志村祐一事務局次長(高24回)、長田敬幸横浜戸陵会会長(高7回)、大井理恵子さくら戸陵会会長(高18回)等ご来賓の皆様、今回も本当にありがとうございました。

2次会は今年も「鳥清大和駅前本店」で約20名、おおいに想い出話で一緒に刻を過ごさせていただきました。平成29年度綾瀬戸陵会総会は、5月21日(日)17時〜大和駅前「北京飯店」にて開催致します。

なお綾瀬市は昨年、前市長の笠間城治郎氏(高14回)、綾瀬戸陵会相談役)から現市長古塩政由氏(高22回、綾瀬戸陵会会員)にバトンタッチされました事を報告させていただきます。



多くの来賓を迎え盛会となった総会及び懇親会

秦野戸陵会

研修会が一転、結婚を祝う会に!!

高橋 昌和(高27回)

神奈川の屋根ともいわれる丹沢山塊。その表丹沢の山裾にある秦野市表丹沢野外活動センターで、平成28年12月9日から10日の2日間に行われた秦野戸陵会の宿泊研修会が開催されました。

里地里山保全再生活動の拠点でもあるこの施設を利用して、宿泊研修会が開催されるようになって今年が3回目。2年前に秦野市文化会館で開催された「第10回青春かながわ校歌祭」の反省会を宿泊でやろうということから始まりました。

次長(高24回)にもご参加いただきました。谷茂会長(高22回)の開会宣言、山本孝史さん(高19回)の乾杯のご発声に続き、松永光弘事務局長(高24回)から、第50回総会という節目の年を迎える平成30年に向けて、我が秦野戸陵会のさらなる活性化策についての問題提起がありました。



1 昨年の秦野市での「校歌祭」が取り持つ縁(?)

雄さん(高24回)が地元産間伐材を活用し、1年かけて制作されたという自慢のアルプホルンで、室内に「ブロン」という独特の素晴らしい音色を響き渡らせるのですが、今回は、ある「重大ニュース」の発表があり、研修会はその話題で大いに盛り上がりつつあります。

残念ながら演奏はかないませんでした。今回は、ぜひ演奏を聴きたいと思いますが、そのニュースとは、「第10回青春かながわ校歌祭」の際、会場前方でビデオカメラを構え、校歌祭の一部始終を撮影し、同窓会の歴史に残るDVD編集をしてくれた二人がいたのを記憶の方でもいらつしやるかと思えます。

海老名戸陵会

小さな音楽堂 発信元として

地域文化の 廣田 敏之(高17回)

海老名の名家の一つに中新田の大島家があります。その中の一人

の8日、秦野市役所に何と婚姻届を提出してきたというのです。この発表があつてからは、当然と言えば当然のことですが、研修会はさて置くこととなり、お二人の新たな門出と幸多きことを祝う会ともなりました。末永くお幸せに!!

(定員47名)を建てられました。そのいきさつを報告させていただきます。内田さんの父親である大島正尚氏は、千葉に勤務地があつたため内田さんは千葉で生まれ育ち、結婚してからも千葉県に居住してまいりました。正尚氏が先祖代々の土地海老名に戻り、住むようになったのは、定年も間近のこと。そんなわけで内田さんは海老名に住まわれたことはありませんでした。正尚氏は18年前、母親も5年前に亡くなったので、かなり広い面積の土地を相続され、住むことになったわけでした。

である大島正孝氏(故人、中8回東大卒、現役時代は医師)の孫にあたる内田さんという方が祖先から受けついで土地に小さな音楽堂とすることとしました。

相川戸陵会

選歴前後から「池波正太郎」「藤沢周平」の時代小説にハマリ、王子、果嶋、本所、深川、両国界隈などを放浪。江戸古地図(安政年間)を片手に歴史女ならぬ「歴史」にデビューし、時代小説の実践に出掛けています。

「歴爺」(れきじい)デビュー

大貫 太郎(高17回)

「相模の彦十」「小房の桑八」達が様子を窺っている。「王子稲荷」「王子権現」はこんな想像を膨らませてくれます。「火盗改・鬼の平蔵」は中村吉右衛門が良く似合います。

「物」は「歴爺」にとつて江戸再発見には何よりです。「橋ものがたり」の「約束」は深川、両国散策に好都合です。「小名木川」に掛かる「萬年橋」で5年後の再会を約した「幸助とお蝶」。今日がその約束の日。鏝職人の幸助は逸る

まだ一刻早く、近くの稲荷社の影から萬年橋の往来人に目を凝らしお蝶を探します。今、お蝶は「夜鷹」になっていました。果して幸助とお蝶の運命は如何に。お後は小説でどうぞ。

往事の面影もない今の東京で、江戸の痕跡を見つけるのは難儀です。でも、神社仏閣は大いなるヒント。これを目印に江戸の探訪に出発進行。

台にした武家物。映画でもお馴染みの「蟬しぐれ」「たそがれ清兵衛」「山桜」などは大変人気があります。数年前、鶴岡市に旅行し、羽黒山を背に、念願の「海坂藩」に佇みました。

気持ちで大川(墨田川)を右手に「両国橋々話」に出ます。橋詰の広小路(火除け地)は見世物小屋や水茶屋が並び、路上では団子やそばを売る屋台もひしめく超繁華街。「一之橋」を過ぎ「萬年橋」へ。約束の七つ半(午後5時半)には

現在の萬年橋は鉄骨アーチ型で稲荷からよく見えませんが、目をつむって家並みを消すと太鼓橋の萬年橋が見えて来ます。北斎の富嶽三十六景「深川万年橋下」の図です。大川を全面に富士見の名所として描かれています。古地図片手に小説実踏。こんな楽しい読み方に漸く気がつきました。

江戸時代、王子、果嶋は寂しい所で、盗人宿が如何にもありそうな場所、「鬼平犯科帳」の絶好の舞台です。薄暗い境内には「狐火の何某」が手下と「急ぎ働き」の悪巧み、大木の陰から「おまさ」

また、江戸庶民を描いた「市井

品が好きです。

地域の音楽・文化活動の拠点に期待される「大島記念音楽堂」



地域の音楽・文化活動の拠点に期待される「大島記念音楽堂」

内田さん自身でピアノ教室を開くかたわら、プロの方の演奏を楽しんでもらう、あるいは地域のアマチュアの方にミニコンサートを開いてもらう、などの利用を通してできる人間関係を大切にしたいという思いと、この地域に音楽を通しての文化を芽生えさせたいという二つの思いで建設を決意されたそうです。

座間戸陵会

第29回支部総会の報告

加藤 隆夫(高21回)



役員改選を機に座間戸陵会の活性化をめざす

平成28年6月19日、座間神社「すいめい」で第29回座間戸陵会総会(瀬戸宏孝会長・高4回)が開催されました。...

南毛利戸陵会

私の宝物、大女優とのツーショット

今岡 千栄美(高28回)



名取裕子さんとは厚高時代の同級生

今、厚木市愛甲で小さな医院を開業しています。専門は循環器内科ですが、町医者なので、実に多種多様な疾患の患者さんが来院します。...

そんな体験もあり、厚木市の災害時医療体制についての講演、東日本大震災でのDMAT医療体験を通じての活動支援などにも参加させていただけます。...

愛川戸陵会

畜産振興に50年余、未だ現役

小島 信男(高17回)

「信さん元気か、頑張っているか」小島菊代先生(中36回)とお会いするのは年に1、2回だけですが、高校卒業後、現在に至るまで会えば必ずこのことをかけて下さる。...

また、相模原、厚木、平塚の食肉センターを一方所にして厚木食肉センターとして100億円かけ新築したおとりも、知事からは本当にやるの?と聞かれましたが、当時の山口巖雄厚木市長(高13回)、都高泉助役(高17回)には大いに助けて頂き、現在豚では日本で12を争う処理頭数を誇っています。...

小鮎戸陵会

消防団活動で培った人生



平成28年4月、春の叙勲が発令され、私は、『瑞寶章』の榮譽に浴しました。これは、長年に亘る消防団活動の功績が認められたことによるものです。

5月中旬、日本消防会館において、勲記・勲章の伝達を受けました。その後、夫婦揃って皇居に参内し、天皇陛下の拝謁の榮譽とともにお言葉まで賜り、この上ない感激の極みに浸ることができました。これも偏に、多くの皆様方から長年に亘るご指導・ご鞭撻の賜物と深く感謝申し上げる次第でございます。

森久保 純生(高16回)

域の方々が、私にとつての教師であり師匠でもありました。その反面、我が森久保家は、元来公務員の家系でしたので、巷では、1、2年も経てば潰れてしまうだろうと噂を立てていたそうです。この噂を耳にして、私は刺激され大反発したことが、逆にここまで頑張れたのかもしれない。

紆余曲折もありましたが、会社の繁栄と自分の教養を高めるために、関連する諸団体に加入して、役職も受け、情報交換や仲間づくりを積極的に行いました。

その一つが地元消防団への入団です。その当時は、長男又は家系の後継者が団員になることが仕来りになっていました。そして私の父親が厚本市消防団副団長を務めた経緯もありましたので、長男(24歳)の私は躊躇なく入団いたしました。

会社の仕事が危険物を扱う関係上、消防機関との連携活動で危険物の怖さや日常生活の豊かさを身をもって感じておりましたので、取り扱い次第で事態が一変することを啓発活動として実践してきました。

また、寝食をともにした訓練や災害活動で培った団友たちとは、遠くの親戚より、近くの他人」という関係を築くことができ、今でも深い友情で結ばれております。そして、さまざまな活動や体験を重ねながら指導的立場になるにつれ、ものの見方や考え方が、大き

く変わり、会社経営や消防団運営にも大きく活かされるようになりました。さらに、退団後も在団中に培った「敏速・確実そして安全」をモットーにして、地域の団体活動に活かしています。

依知戸陵会

支部役員交代にあたって

会長 大塚 定男(高20回)

はじめまして。今年度総会において新しく依知戸陵会会長をさせていただきますと申します。高20回卒業生です。また、一緒に副会長として鈴木正次君(高20回)、事務局長として篠崎俊二君(高20回)が就任することになりました。

前任者の都高泉会長(高17回)、大塚憲二事務局長(高18回)、副会長の座間清二氏(高10回)、斎藤章氏(高11回)、大塚清一氏(高15回)、藤野喜友氏(高15回)諸氏の業績が大きかったので、いささか重荷ではありますが頑張っております。

私の学生時代はちょうど校舎の建て替え時期にあたっていました。旧校舎が手狭になり、大分たびれてきたので建て替えということになったのだと思いますが、工事の間は一足先に校舎の新築を終えて緑ヶ丘に移転した厚木東高校の旧校舎(現在の厚木小学校がある場所)を仮校舎ということにして引越したわけです。校舎の建て替えは数年経きましたが、その

ましたのは、御縁のあった皆様方だと思っています。その私が、春の叙勲の榮譽に浴したことに大変恐縮しております。改めて皆様方に感謝申し上げますとともに、いただいた御恩を忘れることなく、更に精進し、今後のボランティア活動を通していささかなりとも恩返しできればと考えています。

工事期間が在籍時期に重なっていたので。高20回生は2年生の8月に旧東高に引越し、3年生の終わり頃(12月)に再び、戸室ヶ丘の新校舎教室棟に戻って卒業を迎えました。残念ながら体育館・講堂や校舎本館は翌年度の完成だったので見ずに学校を後にしました。

ですから高20回生は古い厚高の校舎、東高の旧校舎、新しい厚高と3箇所(数え方にもよりますが)の建物で勉強したことになります。古い校舎ではもうすぐ建物を壊すことが分かっていたので、その年の戸陵祭にはお化け屋敷などの大掛かりなイベントができました。多少傷がついても汚れても大目に見てもらえたのです。

また、東高の旧校舎では、定時制と同居でしたので彼らと交流ができました。昼間机の中に手紙を入れておくと、翌朝それに対する返事が入っていたのです。ちょっと他の高校生よりも世界が広がった気がしました。

玉川・森の里戸陵会

土いじりが健康維持の源



久崎教生氏(高14回)に聞く

今、元気で活躍している方はたくさんいらっしゃいますが、ここでは地元厚本市七沢にお住まいの久崎教生氏(高14回)を訪ね、近況を語っていただきました。久崎氏は、厚本市職員として23年、その後、地元からたぐさんのご推挙を受け4期16年市議会議員を、平成18年には厚本市議会議員を併せて神奈川県市議会議員会長の要職を務められた。会長の任期中には、宮内庁から園遊会に招待され、更に平成26年には「旭日双光章」の叙勲を受けられました。

言葉があるかどうか知りませんが(と)新校舎世代の架け橋として戸陵会に参加してまいりたいと考えております。ここには紹介できませんでしたが他の役員ともどうぞよろしくお願いいたします。

入院した当初は「年を越すのが難しい」と言われ、本人も家族も落胆したことは言うまでもない。退院直後は、約半年間雑菌が入るからということで、主治医からは「一切土いじりは厳禁」と言われたことが一番辛かった。そうした中であつて、自分自身の考え方が変わってきたことに気づかされた。農業は、天候に左右されながらも明日はどんな作業をするかを考えなければならず、「一日一日を大事にする」「日々の生活を大事にする」ことが品質のよい野菜栽培に、更には、病気に負けない気持ちを育ててくれたと感じている。

また、病後だからといって体を大切にするあまり、家の中に居るばかりで外に出て人と繋がりを持つたなければ気持ちも萎えてしまう人との繋がりは全てにわたって言えることですが、前向きな気持ちになり本人もさることながら家族の安心感にも繋がります。

これからも、お元気で過ごしてください。地域の様々な課題に対してご意見をいただきたいと思っております。

広報委員・三橋敬司(高18回)

同窓会本部役員・理事・支部役員

(平成29年3月31日現在)

【同窓会本部役員】

- 会長 曾根 秀敏 (高14)
副会長 足立原 泰 (高12)
副会長 落合 重治 (高13)
副会長 石射 隆宏 (高14)
副会長 伊藤 修治 (高17)
副会長 大井理恵子 (高18)
副会長 廣木 孝幸 (高19)
副会長 谷 茂 (高22)
監事 大貫 政一 (高17)
監事 大貫 睦男 (高17)

【同窓会本部事務局】

- 事務局長 石塚 修 (高28)
事務局長次長 志村 祐一 (高24)
事務局長次長 平賀 友子 (高35)
会計 水島 泉 (高29)
会計 長田 靖子 (高33)

【理事】

- 1 高橋 力 (高18)
2 高橋 昌和 (高27)
3 小林 義廣 (高18)
4 岡崎 雄二 (高15)
5 金子 輝司 (高15)
6 大矢 正次 (高14)
7 梅澤 文明 (高11)
8 町山 良行 (高11)
9 鶴指 眞澄 (高15)

【各地区同窓会支部】

- 1. 伊勢原戸陵会
会長 高橋 力 (高18)
事務局長 斎藤 実 (高25)
2. 秦野戸陵会
会長 谷 茂 (高22)
事務局長 松永 光弘 (高24)
3. 津久井戸陵会
支部長 奈良 雅之 (高8)
事務局長 小林 義廣 (高18)
4. 平塚戸陵会
会長 落合 重治 (高13)
幹事長 渡辺 兼行 (高19)
5. 相模原戸陵会
会長 金子 輝司 (高15)
事務局長 三沢 賢一 (高21)
6. 座間戸陵会
会長 山本 愈 (高11)
事務局長 大矢 政次 (高14)
7. 愛川戸陵会
会長 八木 一郎 (高14)
幹事長 熊坂 朝一 (高16)
8. 川崎市多摩麻生戸陵会
会長 町山 良行 (高11)
9. 綾瀬戸陵会
会長 近藤 亘 (高14)
事務局長 八田 誠 (高36)
10. 海老名戸陵会
会長 杉崎 秀夫 (高17)
事務局長 鶴指 眞澄 (高15)
11. 三浦半島戸陵会
会長 伊藤 学 (高30)
12. 大和戸陵会
会長 石川 創一 (高18)
事務局長 長田 靖子 (高33)
13. 藤沢戸陵会(旧御所見)
会長 泊瀬川 孚 (高14)
事務局長 大貫 睦男 (高17)

- 10 石川 創一 (高18)
11 泊瀬川 孚 (高14)
12 杉田 泰繁 (高14)
13 新川 勉 (高30)
14 都高 泉 (高17)
15 下川 信好 (高14)
16 剣持 典子 (高26)
17 伊藤 桂 (高16)
18 神崎 愷 (高13)
19 高橋 増次 (高11)
20 高橋 将 (高14)
21 石川 武久 (高16)
24 森久保 純生 (高16)
25 三平 明彦 (高14)
26 八田 誠 (高36)
27 伊藤 学 (高30)
28 星 博美 (高18)
29 齋藤 昌代 (高26)
30 山本 智子 (高28)
31 土屋 由子 (高32)
32 阿部 洋 (高22)
33 真崎 和秋 (高22)
34 今井 雅裕 (高26)
35 関野 俊之 (高28)
36 小川 均 (高22)
39 入澤 隆 (高16)

- 14. 厚木連合戸陵会
会長 杉田 泰繁 (高14)
幹事長 森久保 純生 (高16)
事務局長 平野 亮二 (高27)
① 厚木戸陵会
会長 足立原 強 (高16)
事務局長 池田 清 (高19)
② 依知戸陵会
会長 大塚 定男 (高20)
事務局長 篠崎 俊二 (高20)
③ 睦合戸陵会
会長 下川 信好 (高14)
事務局長 小島 勉 (高22)
④ 荻野戸陵会
会長 三平 明彦 (高14)
事務局長 伏見 清 (高18)
⑤ 小貼戸陵会
会長 伊藤 桂 (高16)
事務局長 森久保 純生 (高16)
⑥ 南毛利戸陵会
会長 神崎 愷 (高13)
事務局長 宗藤 崇 (高21)
⑦ 玉川・森の里戸陵会
会長 高橋 増次 (高11)
事務局長 山口 義章 (高15)
⑧ 相川戸陵会
会長 高橋 将 (高14)
事務局長 山口 正春 (高17)
15. 清川戸陵会
会長 石川 武久 (高16)
事務局長 相原 栄一 (高20)
16. 新潟戸陵会
会長 青木 茂治 (高9)
事務局長 齋藤 勝司 (高8)
17. 関西戸陵会
会長 齊藤 十内 (高16)
事務局長 福本 豊 (高28)
18. さくら戸陵会
会長 大井 理恵子 (高18)
事務局長 星 博美 (高18)

柔道部の思い出

藤沢戸陵会 古賀 敏明 (高16回)

私は昭和36年4月に厚木高校に入学し3年間柔道部に籍を置きました。入学すると各クラブから入部のアプローチが新人生にあり、どこに入るか迷ったものです。柔道部に入ったきっかけは、道場を覗いていると顧問の故山崎勝治先生(通称カッチャン)が「おい等間(私の旧姓)、何をしている早く柔道着に着替えてこい」と言われ、つい「はい」と言ってしまったのです。自分は納得していないのに、と思っても後の祭りでした。なぜ先生は私の名前が分かったかと言うと、私の兄(高12回)が柔道部のOBで私が似ていたからだ

柔道場は77畳敷きの素晴らしい道場でした。毎日、放課後先輩方の激しい指導のもと稽古に励みました。上下関係も厳しく1学年違っただけでも大変でした。今思い出すと3年生は雲の上の存在でまともに話をしたことは無かったと思います。入部して数カ月が過ぎ初めての夏合宿。確か布団、お米などは自分で持っていた記憶があります。合宿所はグラウンドの傍にあったバ拉克の建物です。合宿の食事は1年生が何人かで支度をします。最初の当番の時、火を熾して竈で

ご飯を炊くのですが、経験のない私達は水加減も適当にパンパン燃やしてしまい、結果は大半が黒焦げ状態。当然、焦げたところは1年生が食べることに。2年生から「お前たちは飯も炊けないのか。初めチヨロチヨロ中パッパだ」とお叱りを受け反省したものです。また朝食の時、生卵が10個位しか無く、2年生に尋ねると卵は3年生だけだと言われビックリ。それだけでなくおかずが少ないのに、今では笑い話です。その頃の柔道部は部員が70〜80名、いやもつと多かったかも知れません。厚高は県下でも5本の指に入る程の強豪校でした。そんな厳しい稽古の賜物か、1年で初段を取り2年で2段に昇段することが出来、常にレギュラーとして大会に出られたことは柔道をやっている上での励みであり楽しみでも

ありました。今学校のホームページを見ると、柔道部はあるものの部員は3名位で「本当に？」という思いです。強い柔道部が復活してくれることを願うばかりです。
●応援団OB会会長に
難波角三氏(高16回)が就任
8月27日、厚木商工会議所大ホールにおいて、厚高応援団OB会総会が開かれ、前任の大谷哲郎会長(高6回)の後任として難波角三氏が第7代目会長に選出された。
●高27回の「遠暦同期会開催」
オリンピックの開催年に合わせ、4年ごとの同期会を、6月18日、レンブランドホテル厚木で開催、90名もの参加で大盛況となった。恩師の中川先生、宮崎先生のご臨席を得て懐かしく楽しい会となった。

平成26~28年度 広報委員会委員 (平成29年3月31日現在)

Table with 5 columns: 役職, 氏名, 卒回, 所属戸陵会, 連絡先. Lists members of the Publicity Committee across various clubs.